

IV-48

日帰り温泉施設の利用実態と効果に関する一考察

東北大学 正会員 ○星 啓
 前橋工科大学 正会員 湯沢 昭
 東北大学 齋藤 雅樹

1. はじめに

近年、地域住民の健康増進や地域活性化を目的として日帰り温泉施設が各地で建設されている。日帰り温泉施設は利用者にとっては費用も安く、また容易に利用可能であることから、日帰り温泉利用客全体としては増加傾向にあるが施設数の増加に伴い各施設の利用客は必ずしも増加しているわけではない。本調査研究は、東北地方の山形県大江町の公営の日帰り温泉施設を対象として、日帰り温泉施設の利用実態と利用効果について調査分析を行い、これからの日帰り温泉施設整備の方向性や課題について提案することを目的とする。

2. 調査概要

調査対象施設のある大江町は、山形県のほぼ中央部に位置し、人口 10,180 人、財政力指数 0.22 の町である。町内には日帰り温泉施設が全部で 3 箇所あり、いずれも大江町の産業振興公社が運営している。それらは、町近郊に位置する「柏陵荘」と「健康温泉館」、渓谷山間地近くに位置する「柳川温泉」である。今回、これらの日帰り温泉利用者を対象としたアンケート調査を実施した。調査は、利用者を対象に調査員が調査票を直接配布を行い、後日郵送回収方式を採用した。調査期間は平成 16 年 10 月 22（金）から 24（日）の 3 日間に渡り実施した。調査項目は、①入浴者の個人属性、②自宅から温泉施設までの手段、距離、時間、③温泉施設入浴回数、④温泉利用の理由、目的、⑤温泉施設の整備や清潔感に対する満足評価、⑥温泉入浴後の体感評価などの質問構成となっている。調査票の配布数は、1,891 票（柏陵荘 454、健康温泉館 945、柳川温泉 492）であり、全回収は 858 票（柏陵荘 219、健康温泉館 415、柳川温泉 224）（回収率 45.4%）であった。

3. 日帰り温泉施設の入浴利用状況

(1) 温泉施設別入浴利用回数

昨年 1 年間に日帰り温泉各施設をどれ程入浴利用していたかを、入浴利用回数と入浴利用者数を累積比率結果を図 1 に示す。この図から、累積人数比率

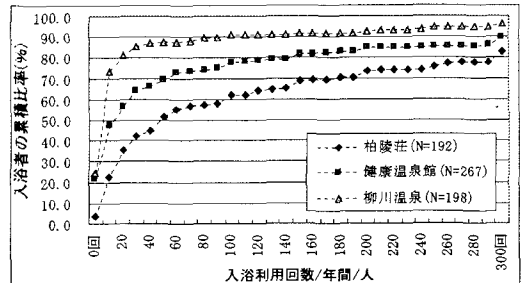


図 1 入浴利用回数者の累積比率

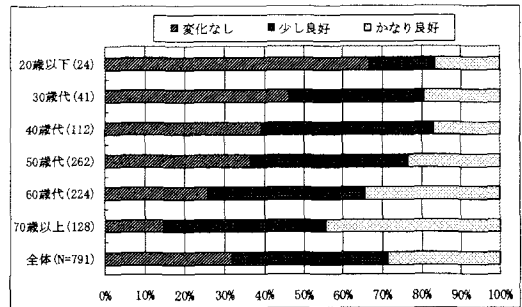


図 2 年代別と身体変化別の比率

が 50 % に達したときの年間入浴回数は、柏陵荘では約 50 回/年、健康温泉館は約 15 回/年、柳川温泉は約 2 回/年と施設により大きく異なった。その理由としては、柏陵荘入浴者は年間入浴回数の多い近場の固定者層が多く、柳川温泉入浴者は年間利用回数の少ない遠距離固定客か単発フリー的な利用者層と考えられる。

(2) 温泉入浴による年代別の体調変化

3 カ所の温泉施設入浴者の年代別による温泉利用開始後の体調の変化（3 段階評価）結果を図 2 に示す。この図より、年代層が低下するほど温泉利用により体調が「変わらない」との比率が高く、逆に年代層が高くなるほど体調が「大変良くなった」との比率が増加傾向にあることが分かる。このことから、高齢者ほど温泉入浴利用効果としての健康増進を意識していることが考えられる。

表1 因子負荷量(回転後:バリマックス法)

■施設整備の質問項目	因子1	因子2	因子3	因子4	因子5	因子軸名
・従業員の誠実な対応	0.95	0.20	0.17	0.10	0.14	接客での真心
・従業員の親切さ	0.88	0.22	0.16	0.07	0.18	
・従業員の対応の良さ	0.82	0.37	0.40	0.06	0.12	
・内湯の洗い場の数	0.20	0.78	0.09	0.06	0.26	
・内湯の広さ	0.16	0.71	0.27	0.05	0.12	湯周りの空間
・脱衣場の広さ	0.26	0.70	0.27	0.12	0.21	視覚的な感激
・玄関の広さ	0.19	0.26	0.83	0.19	0.17	
・建物の外観	0.20	0.22	0.64	0.18	0.17	
・温泉の効能	0.12	0.01	0.16	0.89	0.11	
・温泉の湯の質	0.02	0.12	0.11	0.72	0.18	源泉での性質
・トイレの広さ	0.16	0.27	0.13	0.15	0.74	個室的な空間
・休憩場所の広さ	0.16	0.19	0.21	0.22	0.50	
固有値	2.21	2.08	1.58	1.49	1.09	
寄与率	0.18	0.17	0.13	0.12	0.09	
累積寄与率	0.18	0.36	0.49	0.61	0.70	
■清潔感の質問項目	因子1	因子2	因子3	因子軸名		
・脱衣場の清潔感	0.83	0.36	0.23	湯周りの空間		
・建築内部の清潔感	0.83	0.21	0.28			
・内湯の清潔感	0.71	0.20	0.51			
・休憩場所の清潔感	0.18	0.79	0.12		個室的な空間	
・トイレの清潔感	0.29	0.54	0.36			
・露天風呂の清潔感	0.34	0.25	0.74			
固有値	2.12	1.19	1.08			
寄与率	0.35	0.20	0.18			
累積寄与率	0.35	0.55	0.73			

4. 日帰り温泉入浴利用者の分析結果

(1) 温泉施設の整備評価と清潔感評価

日帰り温泉施設利用者の「施設の整備状況」と「温泉の清潔感」に対する意識を分析する目的で、表1に示すような「施設の整備状況(12項目)」と「温泉の清潔感(6項目)」について、各々5段階の評価をしてもらった(1.不満 2.やや不満 3.普通 4.やや満足 5.満足)。各評価項目の評価結果を用いて、因子分析を行い、共通因子の抽出を行った。結果的には、「施設の整備状況」の評価では5因子、「温泉の清潔感」は3因子を抽出した。各因子の名称は表1の通りである。

次に「施設の整備状況」の因子得点を説明変数、「設備整備の総合評価」を目的変数とした重回帰分析の結果を表2に示す。同様に「温泉の清潔感」を説明変数、「温泉の清潔感の総合評価」を目的変数とした分析も行った。標準偏回帰係数などの値から「施設の整備状況」では「湯周りの空間(0.370)」「視覚的な感激」「源泉での性質」順で重要因子であることが分かった。また「温泉の清潔感」では「湯周りの空間(0.651)」が重要な因子であることが分かる。

さらに、「設備整備の総合評価」と「清潔感の総合評価」を説明変数、「総合的に判断した場合の評価」を目的変数とした重回帰分析の結果を表3に示す。標準偏回帰係数など値から判断して日帰り温泉施設の総合評価には、いずれの項目も同じ程度に重要であるが、若干「清潔感の総合評価(0.488)」の方がパラメータの値が大きい。以上の結果から判

表2 因子得点による重回帰分析結果

■施設整備の変数名	偏回帰係数	標準偏回帰係数	T値	判定
・湯周りの空間	0.341	0.370	7.27	**
・視覚的な感激	0.301	0.340	6.75	**
・源泉での性質	0.269	0.297	5.90	**
・接客での真心	0.229	0.277	5.53	**
・個室的な空間	0.168	0.162	3.19	**
定数項	3.67	—	89.7	**
F値決定係数	40.5			**
修正済決定係数	0.50			
■清潔感の変数名	偏回帰係数	標準偏回帰係数	T値	判定
・湯周りの空間	0.610	0.651	19.8	**
・自然的な空間	0.415	0.390	11.9	**
・個室的な空間	0.272	0.262	80.3	**
定数項	3.52	—	127.3	**
F値決定係数	254.5			**
修正済決定係数	0.791			

** : 1%有意、* : 5%有意

表3 総合評価の重回帰分析結果

■総合評価の変数名	偏回帰係数	標準偏回帰係数	T値	判定
・清潔感への総合評価	0.498	0.488	8.66	**
・施設整備の総合評価	0.447	0.417	7.41	**
定数項	0.387	—	2.43	*
F値決定係数	242.2			**
修正済決定係数	0.707			

** : 1%有意、* : 5%有意

断して、日帰り温泉施設の運営に欠かせないことは、施設内の「清潔感」を維持継続することが重要な要素であり、中でも「湯周り空間」の清潔感の維持が不可欠である。また、施設の整備状況からも「湯周り空間」の整備(内湯の広さなど)が温泉利用者にとっては、温泉施設を利用するの満足感に与える影響が大きいことが明らかとなった。

5. まとめ

日帰り温泉施設の施設整備と清潔感の意識に関しては「湯周り空間」を特に重要視しており、総合的な評価に強く影響を与えることが分かった。このことは、温泉入浴の目的者は、癒しを求めて気持ち良く湯に浸っている時間の、視覚的身近な「湯周りの広い空間」や「湯周りの清潔度合い」を重要視していると考えられる。特に温泉施設内の「湯周り空間」の日常的な清掃が最も重要である。また、温泉入浴者の年代、入浴回数、体調などによる分析から、高齢者ほど温泉入浴利用効果を意識しており、温泉の入浴目的が風呂代わり、療養、リハビリ、体験的な入浴などの種々の実態を考えると、3カ所の温泉施設利用形態の差別化を一層計り、入浴利用者の増加策を検討する必要がある。さらに、経年変化と共に生じる施設老朽化に伴ったリニューアル問題も真剣に検討・準備することが重要と考えられる。

本研究は平成16年度科学研究費補助金(奨励研究)を受けて実施された研究の一部である。